



タイトル「2008年度 教育学部シラバス」、フォルダ「2008年度シラバス - 情報教育」  
シラバスの詳細は以下となります。

科目名	情報技術史概論		
担当教員	田中克範		
対象学年	3年	クラス	51
講義室	N207	開講学期	前期
曜日・時間	金3	単位区分	選必
授業形態	一般講義	単位数	2
受講対象			
備考			
ねらいと目標	情報技術の歴史に関する基礎知識を習得するとともに、技術および技術に関する理論の形成と発達の歴史的過程を分析する。これらによって情報技術に関する知識をより確かなものにする事が期待される。		
内容	原始的な技術から現代の技術にいたるまでの経過の概要を、現代を重視して歴史的な方法によって分析する。とりわけ技術の発達と社会の関係をとらえることを重視する。		
テキスト	特に指定しない。授業中にプリントを配布する。		
参考文献	<p>主要な参考文献(附属図書館に所蔵)として次のものを指定するほか、授業の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 山崎俊雄, 木本忠昭『新版 電気の技術史』オーム社 (1992)</li> <li>2. Martin Campbell-Kelly and William Aspray, Computer: a history of the information machine, 1996. 山本菊男 訳『コンピューター200年史 情報マシーン開発物語』海文堂 (1999)</li> <li>3. 情報処理学会歴史特別委員会 編『日本のコンピュータ発達史』オーム社 (1998)</li> <li>4. 電子情報通信学会「技術と歴史」研究会 編『電子情報通信技術史 おもに日本を中心としたマイルストーン』コロナ社 (2006)</li> </ol>		
成績評価方法	平常の授業における課題(30%)と、学期中のレポート(70%)によって総合的に評価する。		
授業スケジュール(展開計画)	回	内容	
	1	序・情報技術史を学ぶために	
	2	数学・論理学と計算機	
	3	デジタル計算機の形成と商品化	
	4	計算機の高性能化と普及	
	5	伝送・交換技術の発達	
	6	計算機ネットワーク	
	7	通信に関する工学的理論の形成と発展:トラヒック理論と情報理論	
	8	知的財産権:フリーソフトウェアの歴史的意義	
	9	人間に関する情報と人権	
	10	組み込みシステム	
	11	ソフトウェア工学とソフトウェア開発	
	12	労働の手段および成果としての情報技術	
	13	むすび	
	14		
	15		
授業のキーワード	情報技術史 技術史 歴史 IT 情報処理 コンピュータ 計算機 通信 ハードウェア ソフトウェア 労働手段 生産技術		
学芸の学びキーワード			
受講補足(履修制限等)			
その他	情報技術史に関する博物館等の見学は、その都度レポートの提出をもって適宜評価する。		